

旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部
会員向けニューズレター
発行人 古川 彰久
事務局 〒252-0321 神奈川県
相模原市南区相模台1-23-9
Tel.&Fax.
042-748-8240
<http://www.jouhan.com>
E-mail:info@iki2life.com

10月例会ご案内

日時 : 10月14日 木曜日
18:00 ~ 20:00
場所 : 港区立商工会館
参加費 : 1000円
テーマ : 城野先生の「状況判断の行動学」の
第三章(8)修正・反復・継続と(9)
目的達成後の保持より
演者 : 神前 直哉

8 修正・反復・継続

(1) 難関にあっても、あきらめぬ
戦術の実行は一步一步つづけて前進すること
であり、途中でやめてはいけない。失敗だとい
うのなら、戦略方向が間違っていたわけだから、
その方向を転換する必要があるが、途中の難関
とは失敗ではなく作業上の効率の高低にすぎぬ
のだから、行く先そのものを転換する必要はな
い。戦術の実行は途中でやめないということ
を必須条件とする。途中でやめるのは、戦略を棄
てることなのである。

(2) 成功と失敗のエネルギー量

AとBと二つの事物のうち、Aの方がBの方
よりも難しいと思えることは通常現象である。
その難しいというのは、距離が長い、新条件の
出現が多いという分量だけのことである。アフ
リカに行く方が玄関ロビーまでタバコを買いに
行くことより難しいと思うのも、単に距離の長
さからくる未知への不安にすぎぬ。分量が多い
から、時間が長くかかるとはいえても、易しい
とを感じるものに比べて、別にちがったことを
するわけではない。実行をやめずにつづけてお
れば、結局、目的地についてしまう。難しいから
ストップするという理由は、何一つ見つからな
くなるだろう。

大きな問題でも、戦術として実際にやっ
ていくのは一步一步である。それを、止めないで目的
達成までずつづつづけていけば、結局は目的に
行きつく。脳の作用は、ストップをかけぬとい
うだけのことでこの成功を可能にする。戦術の
実行は目的達成まで止めないということ
でなければならない。

9 目的達成後の保持

(1) 成功は成功を保持することにある
目的が達成されたら、これを成功という。しか
し、その達成された状態、成功の成果がつづい
て保持できなければ、成功した意味はない。
敵陣に突入して占領したら、要所に兵隊を整備
し、大砲をすえ、指揮部は壕の中にもぐり、ど
んな反撃にも、びくともせぬ配置をととのえて
おかねばならぬ。世の中のことは、万事これと
同じである。小さな会社を大きくし黒字にした、
これで安心と気をゆるし、ムダ使い、自惚れ、
放漫経営となると、忽ち倒産となる。成功の保
持という観念がなかったからである。
戦術実行によって、戦略目標を達成したら、そ
の成功の成果を、これ以上に気をくばって保持
していくという心掛けがなければ、その上に、
さらに新しい成功をつみかさねていくことはで
きない。

(2) 実績を重ね、事態に対処せよ

これまで、脳の使い方のプロセスを示した。
これを暗記してしまうことはたやすくできる。
しかし、暗誦できるだけでは、自分の行動とな
って事を処することはできない。脳中枢から、
身体各部への行動指令が出るようにするには、
暗記した法則基準を、実際行動に適用して、何
度でもやってみることである。
行動した結果として、うまく処理した、成功し
たという実績、うまく処理できなかった、失敗
したという実績を点検し、どこに、どう通用し
たからうまくいき、成功したか、或いはうまく
いかず、失敗したかの原因を究明し、その次の
行動の参考にする。これを繰り返していくと、
脳細胞のシナプス形成が、次第に再編成され
ていき、どんな事態にも、立派に対応できるよ
うになってくる。

このように、一人一人が変化をとげ、発展し、
世の中を明るくし、もっともっと素晴らしい生
活と人生を、作り出していくようにしたいと
思う。能力開発とは、人生観の転換であり、無
限の可能性の創出であり、人類生活と、人生を、
更に豊かにしていくためのものである。

